

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201260		
法人名	アークエム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑		
所在地	千葉県千葉市花見川区天戸町1366		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和5年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設18年目に入りご入居者様の高齢化・介護度重度化に伴い医療面の強化に努め体調の変化・不良等には主治医もしくは往診医への連絡、病院への付添いなどを迅速に対応しています。また、これまでの経験を生かし他施設にて介護の重度化等により対応困難な方の入居を積極的に受け入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の良い点は①ホームでは原則規則はなく、利用者本人のその日の状態やペースに合わせ、その都度職員同士で調整しながらその日の過ごし方に対応している。②介護度は高くなっても新聞たみやウエス作りなどできる事の支援に取り組み、庭のみかんを取り皆で味わい、食べられない利用者にはゼリーにして提供するなどの取り組みがおこなわれている。③職員は「その方のペースに合わせた支援」を共有し、職員同士常に皆で意見を出し合い、改善に結び付く提案などを共有しサービスに反映させている。長く勤めている職員が多く、ホーム長のリーダーシップのもと、職員同士が常に話し合い、助け合う職場は明るく、利用者・家族の笑顔と安心につながっている。④ご家族に頻りに電話等で近況報告をおこない、家族と情報を共有しながら支援に努め、アンケートからは感謝と職員を気遣う言葉が溢れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を見えるところに掲示し意識づけをしておりその内容に基づいた支援を心がけている。	管理者は「個人の能力に応じた自立した生活」の理念のもと職員に「その方のペースに合わせた支援」を行なうよう求めている。職員は常に利用者支援について皆で意見を出し合い、改善に結び付く提案などを共有しサービスに反映させて理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日に散歩をするがその際、近隣の方と挨拶や会話等で交流をしている。また、自治会のごみ拾いに職員が参加している。	町内会より「敬老会の案内」を頂き、散歩時にご近所の方と挨拶を交わし、近隣のデイサービスより「歌の会」に招待されるなど地域住民との交流を図る支援がおこなわれている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご見学や電話にてお問い合わせ等があった場合は出来る限り時間を作り丁寧にわかりやすくお話しさせて頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、参加者は施設職員及び本社職員とし地域包括支援センターやご家族等には書面にて報告し書面を送付する際、ご意見・ご要望等を聞く欄をもうけ返信して頂いている。	運営推進会議は感染対策の為書面による開催であったが、今回より地域包括支援センター職員、社会福祉協議会の方、地域代表として近隣デイサービスセンター職員等の参加を得て開催し、入居者・職員体制、感染症対策などの活動報告を行っている。	より多くの参加者を得て意見・アドバイス等を収集する為にも、研修会や行事等に合わせた開催など会議内容を工夫する取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター、社会援護課等、必要時に電話連絡や窓口に行き相談や報告をしている。特に社会援護課とは生活保護受給者がいるので密に連絡を取っている。	管理者は地域包括支援センター職員とは、地域で独居の方や介護度の高い方の情報を共有し、入居相談等連携を密にして協力関係を築いている。また、社会援護課とは生活に困窮されている高齢者支援に連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが拘束をしないケアを心がけている。やむを得ない場合においてはご家族に説明し同意して頂き経過観察し再検討をし記録に残している。	車椅子使用時の安全ベルトについて、緊急やむを得ない場合の三原則を確認し、内容、目的、拘束の時間、実施する期間を説明しご家族の同意を得て慎重に取り組んでいる。	カンファレンスでは実施したその結果や、弊害等について確認し、再検討した結果を記録することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止について」の資料を常に閲覧できる場所に置いたり職員会議にて勉強会をしたり職員一人ひとりが虐待の防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉の意味や制度について職員会議等で学ぶよう知識の向上に努めている。成年後見制度についてはご入居者様で後見人がついている方がいるのでどのようなことをしているの少しずつ理解してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時利用者や家族の方からの質問、疑問については理解されるようにお話をしています。また、入居前には必ず見学されるようお話をしている。法改定に伴う料金変更の際は同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時又は定期的にお電話にて状況報告の際などにご意見を伺っている。ご意見があった場合には職員会議にて報告し運営に反映させることもある。	家族の来訪時に日々のケアを伝えている。また、定期的に電話や画像、動画等で近況をお知らせし、その都度家族からの要望や意見を聞くようにしている。意思表示の困難な利用者は表情を汲み取り意向の把握や体調不良の早期発見などの支援がおこなわれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、もしくは随時、意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させています。	管理者は風通しが良く、意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、職員からはレクリエーションや飾りつけ、受診支援など日常的に提案が行われている。パート職員も含めて全職員で協力し合う働きやすい職場と思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準においては常に情報収集し近隣施設より高くなるようにし有給休暇は全消化してもらうなど働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームは小規模な施設でなので管理者は職員の動きと力量が見える為その場で指導したり職員同士でも遠慮なく意見交換しお互いに成長できる環境を作っている。職員会議にて介護技術、知識等の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の運営推進会議に参加させて頂いたり当施設の運営推進会議に出席して頂いたり相互の活動内容を報告しサービスの質向上に取り組んでいます。法人内の他施設との会議にて意見交換なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や性格等を知り、その方に合う話し方や接し方に心がけているが入居後、環境の変化に伴いニーズ等が変わる事もあるので入居前の情報にとらわれず柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に出来る限り入念に話し合いを行い出来ることは行わせて頂き出来ない事は安易にお約束せず代替案を考え要望に沿えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの方が本人、家族等にとって必要であると判断した場合は他サービスをすすめることもあり訪問介護、通所介護、小規模多機能など他サービスの特徴の把握にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がわからないことがあり本人がわかりそうなことであれば教えて頂くこともあり家事等を行って頂いた場合は感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の介護方針を変更するときなどご家族にも意見を聞き反映させるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため面会は短時間にてお願いしている。。ご希望のあるご家族には携帯電話にて画像・動画を送っている。	介護度も高くなり馴染みの人や場との関係継続支援は難しくなっているが、近隣のかかり付け病院への車いすによる同行やお孫さんの来訪、居室で好きな高校野球のテレビ観戦など、一人ひとりの生活習慣を尊重した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などに留意しながら席の配置を考え穏やかに生活できるようにしている。また、独りでの事が落ち着く方には独りの席を用意しているが孤立しないよう職員がかかわるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も家族からの電話相談などにも対応している。お亡くなりになられ退去された後もご家族が運営推進会議に参加して頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の方からの情報を基に気持ちに沿ったケアができるよう努めている。ご本人から聞き出すことが困難な場合は言動・表情など生活の中でくみ取るよう努めている。	日々のケアの中で利用者が発する言葉や言葉にしづらい思いを汲み取り、職員同士で話し合い共有している。把握が困難な場合でも表情などから汲み取り利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ご入居前のケアマネジャー等から情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何が出来て何が困難になってきたのかを常に観察そして正確に把握し残存機能を最大限に利用できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、往診医などの情報を参考にし、カンファレンスや申し送り時に意見や方法等を話し合い、介護計画の作成に活かすよう努めている。職員全員からアンケートを取り意見やアイデアを収集することもある。	利用者ご家族には常に電話等で状況をお伝えし、希望を確認している。3か月ごとに管理者・職員でカンファレンスを行い、介護支援専門員が介護計画を作成している。利用者の変化、体調管理等話し合い、気になる病状等は訪問医に相談し、指示のもとに現状に即した介護計画が作成されている。	モニタリングは体調管理等の経過観察ではなく、目標に対して達成できているのか、近づいているのかを確認する取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や身体的変化、ご本人の様子等個別に記入し職員会議等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時に荷造りや引っ越し等が困難なご入居者様については荷造り、引っ越しのお手伝いを職員が対応している。通院はご家族が対応困難な時は職員が対応している。リハビリが必要な方には訪問リハビリを行っていることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、区民まわりの参加や地域の商店での買い物は控えている。体調、体力に問題がある方が増えてきたため施設内での楽しみを増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族がご入居前のかかりつけ医が希望であれば継続して頂く。特にご希望がなければ往診医に診て頂くことになるが、今までのかかりつけ医、往診医と両方から医療を受けられる方もいる。	訪問診療医による往診の他に、入所前からのかかりつけ医への継続受診や必要に応じた皮膚科や歯科など専門医への受診についても、車椅子で受診できる状況などを調査しながら職員による通院同行も行われおり、本人および家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職及び訪問看護師等と密に連絡を取り身体的変化や対応等相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はまめに医療機関に連絡を取り利用者の現状を聞いている。治療は終了し食事摂取に問題があるときは施設にて対応可能と判断した場合は医療機関にその旨を伝え早期退院になることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の方針についてご家族に説明をし同意をいただいている。実際に終末期となった場合は再度ご意向を確認し往診医、看護師等と連携しチームで支援する体制になっている。	長期入院により重度化した場合でも、退院時には、医師、看護師、本人および家族との話し合いを十分に行った上で方針やケアの内容について決定し支援している。経鼻経管栄養チューブを抜去し、経口摂取を可能とした例もあり、家族の心の支えにもなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は直ちに管理者又はそれに準ずる者に連絡し指示を仰ぐよう徹底させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、災害時の避難訓練は年2回行っています。近隣ご家族に協力を呼びかけ、災害時の協力体制に努めている。職員連絡網の確認や災害時の対応の認識に努めている。	日中火災を想定した総合訓練を年2回実施し、飲料水や食料などの備蓄品を1週間分確保して災害発生時に備えている。地域の通所介護や障害施設、薬局などとも話し合いを行い、非常時の協力体制についても連携が図れるよう関係構築に取り組んでいる。	火災訓練に関しては、事務所や居室などのコンセント火災についての想定も検討された。また、完成した自然災害発生時の事業継続計画をもとに、具体的な行動についての職員説明が行われることに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が傷つく言葉・対応は人によって違う場合があるのでその人に合った言葉・対応に心がけている。職員同士でも気になった言葉・対応があったらその場で注意・助言するようにしている。	一人ひとりの尊厳を大切にした支援を行うために、本人の思いや価値観などを考慮した言葉かけを心がけ、身体能力的に反応が困難な方へも常に声かけを実践している。また、その方の生活史を把握し、尊重した会話を行うことで誇りについても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を引き出せるような声かけに努めている。自己決定が困難な方には家族の意向を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで日常生活において原則とか規則はなく、ご本人のその日の状態やペースに合わせ、その都度調整しながら、その日の過ごし方に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着たい服を着て頂いている。困難な方は、職員によりその方が引き立つような服を選び着て頂いている。化粧をする方や髭剃りをする方で可能な方は本人に行ってもらっているが出来ない方は職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理担当者が中心に行っているが下ごしらえなど出来る方は職員と一緒にしている。正月、敬老会、クリスマスなど月1回程度行事食もお出ししたり庭にできた野菜、果物を一緒に収穫し召し上がっていただくこともある。	野菜の下ごしらえや食器拭きなど、利用者の状況と希望により職員とともに行われている。また、食事を楽しむためには視覚にも気を配り、ミキサー食の場合でも色を考慮した配置を行い、嗅覚に対してアプローチする声かけを行うなど工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安に1ヶ月の献立が考えている。食事は身体や口腔の状態に合わせて常食・一口大・ミキサー等の工夫をしている。また、脱水にならないよう水分補給に心がけている。必要に応じてとろみをつけたりゼリー状にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず、口腔ケアを行い清潔にしています。また口腔内の炎症や虫歯、義歯の調整等は必要に応じて訪問歯科に来て頂いたり歯科医院に受診したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人、毎日の排泄パターンを記録し、時間を見て排泄介助を行いトイレでの排泄に心がけている。オムツ使用の方も可能な限りトイレまたはポータブルトイレでの排泄を心がける。体調不良時や、入院時に一時的にリハビリパンツからオムツになっても必ず戻すようにしている。	利用者個々の身体状況に応じ尊厳を大切にしたい排泄支援に努めている。オムツを使用している場合でも、オムツやパットの選択や当て方を工夫しながら不快になることのないよう配慮している。また、介助方法についても統一できるように個人指導が実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に毎日記録を行い、排便の確認をしている。水分や運動により予防をしているが便秘が続く場合、医師の指示により薬の内服を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴で1日4～6名の方が入浴している。毎日の入浴も可能。身体状況に配慮しながら1人ひとりのタイミングに合わせている。入浴剤、ゆず湯、菖蒲湯など入浴を楽しめるよう心がけている。また、体調不良で入浴が出来ない時は清拭、足浴、手浴、ベッド上での洗髪などで対応している。浴室、脱衣場の寒暖差には注意している。	特にシャワー浴での移乗の際には、身体状況に応じた転倒防止に努め、浴槽に足をつけながら洗身を行うなど保温にも十分配慮が行われている。また、入浴は、全身の皮膚観察の機会でもあるため、乾燥や皮下出血、皮膚剥離など入念な観察を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はその日の体調に応じて対応している。また、夜間良眠して頂けるように日中は体操、お手伝いなど無理のない程度に起きて頂くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく出されたり今まで服用していた薬が中止になった時などは口頭と連絡ノートにて情報を共有し要観察し何か変化が見られた場合は速やかに主治医に連絡している。新しく出された薬については服用方法、注意点など薬剤師から直接指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の長年の習慣や趣味を活かし、裁縫や庭仕事、おやつ作り、掃除等職員の声かけと共に一緒に行っている。重介護で反応の無い方であってもCDで音楽を聴いて頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出は控えていますが施設周辺の散歩は短時間、短距離で行っている。施設の庭での日光浴は天気の良い日は行っている。車での通院時の際は少し遠回りをしドライブをしている。	施設の庭には、桜やみかん等の樹が植えられており、車椅子の方も日常の外気浴が行われている。豊作だったみかんは利用者自身もいそのまま食べたり、嚥下状況に応じてはジュースやゼリーを作ることで皆で楽しむことにつながり大変好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がいない為、ご本人でお金を所持している方はおりません。ご家族の方から預かったときは出納張に記入している。通院時、会計の時にその場でお金を渡しご本人で支払っていただく機会は設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるようしておりご自分でかけられない場合は職員がかけている。手紙や葉書を書かれたときは、職員が預かり投函している。本人からの申し出が無くてもご家族に電話しお話をして頂く場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、台所が一つの部屋となっており、料理の匂いも楽しめるように配慮している。庭では季節の花や野菜を栽培し、匂を楽しめるようにし壁はご利用者の作品や、協同作品を飾り楽しんでいる。不快な空間にならないように心がけている。	リビングや廊下、トイレなどの共有空間の換気や温湿度管理は職員により徹底されている。特にトイレの臭いについては不快につながるため、こまめな掃除とゴミの始末、消臭剤に至るまで細かな気配りが行われていて、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブル席、ソファーとご自由過ごされておりご自分で移動が困難な方は職員が常に気を配り声掛けをし本人の行きたいところへお連れするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドや筆筒等馴染みの物を何でも持ってくる事ができ壁や整理筆筒の上には写真やご自分の作品等を飾り思い思いに楽しまれている。居室内部から施錠もあり安心して過ごせるよう配慮している。	利用者の使い慣れた物や馴染みの物を配置しながら、一人ひとりの身体状況に応じた導線確保や安全管理のために職員は話し合いを繰り返し、居室のレイアウトを行ったり、必要に応じて変更したりしている。そのことで、利用者はゆっくりとした時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や出入り口には物を置かないよう安全に心がけ、洗面道具や湯飲み等手の届くところに置くようにしご自分で出来ることはご自分で行って頂くようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の為、運営推進会議は書面開催を行っていたが4年ぶりに施設にて開催をした。参加者も地域包括支援センター職員等4名の参加だった。内容はコロナ感染に関する事が中心だったので次回からは会議内容を工夫したい。	コロナ禍の為、コロナ感染中心の話となってしまうが他の話題を検討し苑の運営に生かしたい。	次回の運営推進会議でコロナ感染以外の話題にする。	2ヶ月
2	34	火災訓練を行う際に1階の台所からの出火を想定し訓練をしていたが台所以外の出火を想定した訓練をしていない。	1階台所以外の出火も想定し訓練を行う。	次回の火災訓練を行う時に1階台所以外の出火を想定した訓練を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。